

# 「原理原則防災」セミナーへのご質問への答え

この度は2024年3月9日の弊社Webセミナー「原理原則防災」にご参加いただきまして、心より御礼申し上げます。

下記の質問を頂きましたので、回答させていただきます。

## ★MS様からのご質問

①何故日本人とポリネシア人だけ、左脳に感情が入る脳の仕組みになったのでしょうか。同じ島国という共通項で考えた場合、同一民族ではその方が生存するのに優位だった等の理由があるのでしょうか。

②加谷珪一さんの「国民の底意地の悪さが～」に、ムラ社会＝前近代性と資本主義の相性の悪さが書かれていました。まさに日本の現状そのものだと思います。これから日本が成長、停滞しない為に個人が努力すべき事は何でしょうか。

## ★回答

①島国の海洋性民族故に・・・群れとしての生存条件が厳しかったからかも知れませんね。

現生人類が、アフリカからユーラシア大陸に進出したのは、約5万年前、後期旧石器時代のこと、日本列島には約3万年前の旧石器時代から人が住み始めました。約300～500年前に生まれた人類が、はるか遠く、アフリカで誕生した私たちの祖先が、何世代もかかって世界の各地に広がっていった。

私達の先祖が約3万年前に大陸から先の全く見えない大海原に恐怖を押さえて漕ぎ出した！という事は、少なくとも勝ち組の群れでは無く・・・追い立てられた（海しか逃げ場が無い）負け組の人類であった事が推定可能です。

私もハゼ釣りから始まり大海原でマグロやカツオやカジキを求めて釣りをしましたが・・・最初に小舟で陸地の全く見えない太平洋に乗り出す時は、レーダーやGPSやイーパブ、救命ボート、無線等の最新航海計器（数百万円相当）があったとしても、とてつもない恐怖に耐えながら乗り出した・・・リアル恐怖（命の恐怖）・・・を思い出します。

この恐怖は何年（外洋釣35年間・急変大嵐で2度死にかけた）も経験を積むごとに、ほんの少しずつ弱くなったとはいえ最後の最後（最初の恐怖の1/2程度まで減少）まで無くなる事はありませんでした。

（続く）

(続き)

日本列島には約 1 万年前の縄文時代には推定2万人しか暮らして居ません、約4,000年前の弥生時代になり約59万人、約1,000年前の平安時代でも約500万人です。群れとしてのひとまとまりが小さく、小さい群れの生き残りの戦争を何度も何度も経験して、生きる為には家族的な集団で協力（群れの中での意見の対立は死を意味する）する必要があった事が影響しているのかも知れませんね。

そして日本人は世界最大の心配性（チャレンジ能力最低）の民族特性もあるのかも知れません。詳しくは書籍「日本人の脳: 脳の働きと東西の文化」及び「日本人の脳 続: その特殊性と普遍性」角田 忠信 (著)を読破して下さいね！

②・・・プリンシプル思考を身につける事！第一原理思考が常時出来る事、そしてなるべく自給率を高める事！、その時に助け合える大人（たいじん）としての同士を今から獲得する事！リスクリテラシーを高める事。リスク耐性（事前の準備）を怠らない事。個人として胆力を鍛え続ける事！白洲次郎氏に学ぶ事！

今できる最善を今やり切る事！

### ★KD様からのご質問

お話されていたEQの高いお医者さんを見つけるには何かコツがあるのでしょうか。

### ★回答

K様のEQ力が高ければ自動的に見つけられます。（私の経験則から約1/10程度しかEQ力の高い医者はいません。そしてEQ力 + 技術力の高い医者は1/100程度でしょう。）

そしてあきらめずに一生懸命に良い医者を見つけるまでトコトン探す事です。特にがんなどの病気に対しては医者選びの良し悪しでほぼ全てが決まります！エリアなど気にはなりません！

健康診断（出来れば人間ドッグ）を欠かさない人の普通のがん（ステージII以下）なら検査等で1週間弱、手術から退院まで1～2週間程度です。有給休暇又は病気休暇を取りホテルを取れば済む事です。EQ力の低い人にEQ力の高い人判別は不可能です。

### ★MY様からのご質問

今回のセミナーで、そもそも私の住むところ（豊橋市牛川町）は、戦略的=安全な土地に住むとしてはどうだったのか疑問になりました。

### ★回答

牛川は牛川原人がいる様な土地でしたから比較的土壌、地域としての安全スコアは高いと推定されます。しかし、牛川の区画整理内ならベストでしたでしょうが・・・諸事情もあり現在の所になったと思います。・・・リスクは隣家からの火災と水道インフラの破断だけだと思いますから・・・隣家等の新しい家の方と防災協力の話し合いなども事前に進めるのも効果的で力を合わせて延焼防止を心掛ける事だと思います。

### ★TS様からのご質問

浜名バイパスを走行中に地震がきてしまったら、どうしますか？浜松付近を走行中だと、車を隅に寄せて高台に避難と分かっている防波堤も低く、高い所が全くなく通る時に不安しかありません。。

### ★回答

一応浜名バイパスの大橋の東側は約20mの防潮堤が整備されていますが・・・西側は無いので津波は回りこんで時間と共に広がります。津波が到来するまで、時間的には10分前後しかありませんから車を道路わきに停めて・・・20m以上の津波が来ない事を祈り20mの防潮堤によじ登る、または浜名大橋の最高部まで駆け上がるくらいしか方法はないと思います。

浜名バイパスの塩見坂近くにいたら、即インターを降りて北側の浜名湖カントリー側の山に車で行ける所まで行って・・・後は自力で山の上まで駆け上がる事しか無いと思います。震源の位置にもよりますが時間は推定10分前後しかありません。

そしてその時に有効なのは・・・ライフジャケットをクルマに積んでおき直ぐに着る事であり、防水の発煙筒などもライフジャケットのポケットに数本入れておくと・・・上空をマスゴミのヘリや自衛隊のヘリが低空で飛んだ時には見つけてもらう目印になると思います。

津波に流され仮に命があった場合に、海に浸かったままだと冬は低体温症で30分前後程度しか持ちません。夏は数時間なら命を持続可能ですから津波によって流されてきた木材等によじ登る事です。

なるべく旅行ルートは高台や津波リスクの少ないルートを使う事が良いと思います。また、お出かけ専用の防災リュックをトランクに入れておくのも効果的です。

★以上、ご質問に回答させていただきました。この度は弊社Webセミナー「原理原則防災」にご参加頂きまして心より御礼申し上げます。

学んだ知識をぜひとも価値に変える努力をして頂いてあなたの人生に役立ててくださる様をお願い申し上げます。

また、知識を価値に変える最も有効なラーニングピラミッドの実践も忘れずに実行していただけるように重ねてお願いします。

2024年4月13日土曜日、午前10:00より、「住育・食育・医食同源」セミナーを開催させていただきます。全く新しい切り口から住育等（QOL向上の知恵）を考察しようと思いますので、ご一緒に学びましょう。ぜひご家族全員でご参加くださいね！

牧平

次回のWebセミナー「**住育・食育・医食同源**」は  
**4月13日(土)**に開催します。ぜひご参加くださいませ。